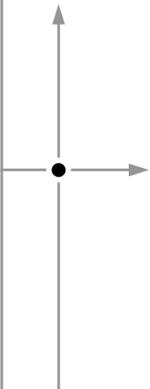


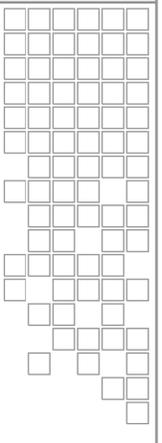
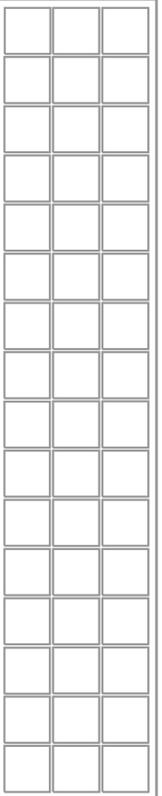
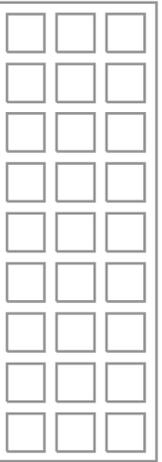
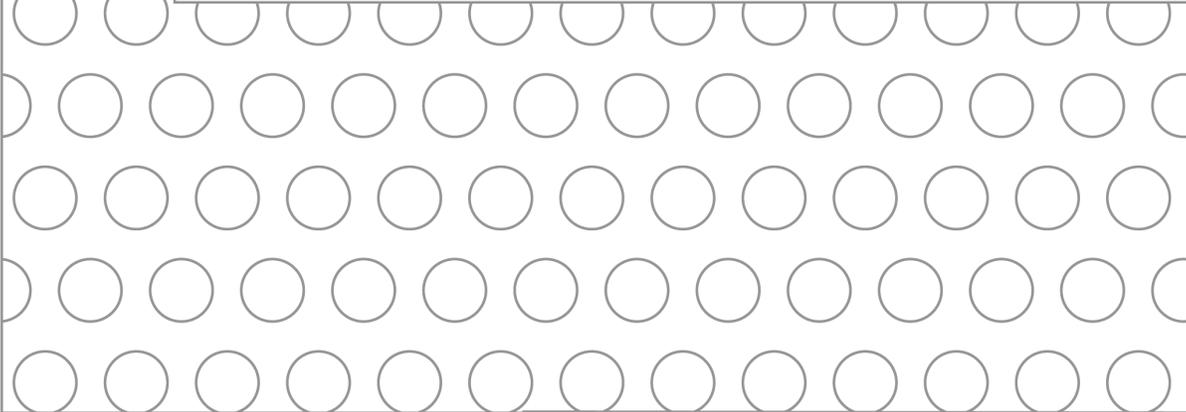
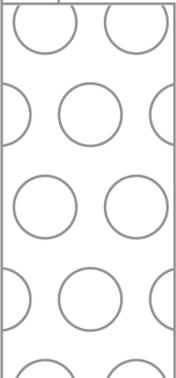
T2

INTELLIGENT DIGITAL DISK RECORDER

Maintenance Manual



F0951006111
JUNE 2010



ご注意

- (1) 本製品の一部または全部を無断で複製することを禁止します。
- (2) 本製品の内容や仕様は将来予告無しに変更することがあります。
- (3) 本製品は内容について万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどお気付きの点がございましたら、当社までご連絡ください。
- (4) 運用した結果については、(3) 項にかかわらず責任を負いかねますので、ご了承ください。
- (5) ご使用上の過失の有無を問わず、本製品の運用において発生した逸失利益を含む特別、付随的、または派生的損害に対するいかなる請求があったとしても、当社はその責任を負わないものとします。
- (6) 本製品付属のソフトウェア、ハードウェア、マニュアル、その他添付物を含めたすべての関連製品に関して、解析、リバースエンジニアリング、デコンパイル、ディスアセンブリを禁じます。
- (7) 付属の電源ケーブルおよびその他ケーブル類は本製品専用です。接続には必ず付属ケーブルを使用してください。
- (8) QuickTime および QuickTime ロゴは米国アップル社の登録商標です。
- (9) Microsoft、Windows、Windows Media、Internet Explorer および SQL Server は米国マイクロソフト・コーポレーションの登録商標です。
- (10) Intel、Core 2 Quad は、米国およびその他の国におけるインテル コーポレーションまたはその子会社の商標または登録商標です。

表記について

- 本書に記載されていない情報が記載される場合がありますので、添付のテキストファイルやリリースノートなども必ずお読みください。
- 本書での説明と実際の運用方法とで相違点がある場合には、実際の運用方法を優先するものとします。
- 本書は T2 標準モデル、T2 RAID モデル、T2 SSD モデルの共通マニュアルです。本文中の画像やイラストは、実際の製品とは一部異なる場合があります。
- 本書で使用している画像は開発中のものであり、実際の製品とは異なる場合があります。
- 本書はパソコンの基本的な操作を行うことができる方を対象に書かれています。特に記載の無い操作については、一般的なパソコンの操作と同様に行ってください。
- 本製品の内容は、仕様変更などにより予告なく変更することがあります。

改訂履歴

改訂日	内容
March 01, 2010	F0951003081 バージョン 1.0
June 11, 2010	F0951006111 バージョン 1.1

T2 Maintenance Manual
Copyright © 2010 Thomson Canopus Co., Ltd.
All rights reserved.

安全に関する注意事項

以下の内容をよくお読みいただき、本製品および本製品に接続されている製品の損傷や破損を未然に防止してください。

保守・修理作業は、専門の技術を有する人が行ってください。

- 絵表示について
本製品を安全に正しくお使いいただくために、以下の内容をよく理解してから本文をお読みください。

 警告	人が死亡または重傷を負う恐れのある内容を示しています。
 注意	ケガをしたり財産に損害を受ける恐れのある内容を示しています。

- 絵表示の意味

	この記号はしてはいけないことを表しています。
	この記号はしなければならないことを表しています。
	この記号は気をつける必要があることを表しています。

使用上のご注意

設置について

 警告	
	本製品は安定した場所に設置してください。 本製品が倒れたりすると本製品の損傷やけがの原因となります。
	温度が高くなるところに設置しないでください。 直射日光の当たるところや発熱する器具の近くなどに置くと火災や故障の原因となります。また、本製品が変形、変色するおそれがあります。
	湿気や油気の多い場所では使用しないでください。 回路がショートし、感電するおそれがあります。
	アースは必ず取ってください。 感電の防止になります。
	AC100V コンセント以外の電源には接続しないでください。 機器の破損の原因となります。
	プラグは根元まで確実に差し込んでください。 差し込みが不完全な場合、感電や発熱による火災の原因となります。
	たこ足配線はしないでください。 火災の原因となります。
	ぬれた手でケーブルの脱着をしないでください。 感電および故障の原因となります。

安全に関する注意事項

 警告	
	プラグは定期的に清掃してください。 プラグにほこりなどがたまると、絶縁不良などにより火災の原因となります。
	ケーブルの加工はしないでください。 ショートして火災や感電の原因となります。

 注意	
	通風孔をふさがしないでください。 筐体内部に熱がこもり、故障の原因となります。
	極低温、極高温、高湿度の環境で使用しないでください。 機器を破損するおそれがあります。
	ほこりが多い場所では使用しないでください。 ほこりが通風孔や内部につまると故障の原因となります。
	長期間使用しない場合はコンセントを抜いてください。 火災の防止になります。
	ケーブルを抜き差しする場合は、必ず根元のプラグを持ってください。 断線の防止となります。
	ケーブルの上にものを載せないでください。 断線して火災の原因となります。
	本製品を移動する場合は、必ず電源を切り、プラグを抜いてください。 電源を入れたまま移動すると故障の原因となります。
	ケーブル類の設置場所にご注意ください。 ケーブル類に引っかかると本製品が転倒したり落下し、機器を破損するおそれがあります。また、落下した本製品でけがをするおそれがあります。ケーブル類を踏むと断線し、火災の原因となります。
	製品付属のケーブル以外は使用しないでください。 火災や機器を破損するおそれがあります。

ご使用について

 警告	
	煙が出たり、異臭が漂う場合は、すぐに電源を切りプラグを抜いてください。 本製品が故障しています。そのまま使用していると、爆発・火災の原因となります。
	本製品が物理的・機械的に故障していると思われる場合は、すぐに使用を中止してください。 そのまま継続して使用すると、爆発・火災の原因となります。
	ぬれた手で機器に触れないでください。 感電および故障の原因となります。

 **注意**

	本製品の上に重いものを載せないでください。 筐体に変形するおそれがあります。
	本製品の上に水などの入った容器や金属物を置かないでください。 水などがこぼれたり、クリップなどの異物が内部に入った場合、火災、感電の原因となります。
	本製品に衝撃を与えないでください。 破損の原因となります。
	不用意に端子類に触れないでください。 故障や感電の原因となります。
	お手入れの際は電源を切ってください。 接続する時やお手入れの際は電源プラグを抜いてください。感電や製品故障の原因となります。お手入れの際は、シンナーなどの揮発性の溶剤を使用しないでください。

安全規格

本製品は以下の安全規格・法規に適合しています。

規格番号	名称
IEC 60950	Information technology equipment - Safety - (2001. First edition)
EN 60950	Information technology equipment - Safety - (2001)
J60950 (H19)	電気用品安全法 (特定電気用品以外の電気用品)

安全に関する注意事項

目次

	安全に関する注意事項	3
	はじめに	9
Chapter 1	製品について	
	製品の概要.....	12
	システム構成.....	13
	PC Subsystem.....	14
	Codec Subsystem.....	14
	Front Subsystem.....	15
	XLR ボード.....	15
	ヒューズボード.....	15
	ステータス表示について.....	16
	電源ランプ表示.....	16
	LAN インジケータ.....	16
Chapter 2	メンテナンス	
	タッチスクリーン LCD のお手入れについて.....	18
	メンテナンスモードの起動と終了.....	18
	メンテナンスモードを起動する.....	19
	メンテナンスモードを終了する.....	20
	Maintenance Tools の使用.....	22
	Maintenance Tools の起動.....	22
	Maintenance Tools の終了.....	23
	メディアドライブのメンテナンス.....	23
	データのメンテナンス.....	27
	システム関連のメンテナンス.....	34
	Windows デスクトップの使用.....	37
	工場出荷時の状態へ復元.....	37
Chapter 3	トラブルシューティング	
	ステップ 1 設定を確認する.....	42
	ステップ 2 接続と外部機器を確認する.....	42
	起動・終了に関する問題.....	42
	外部機器の確認.....	43
	外部ディスプレイに関する問題.....	43
	キーボードに関する問題.....	43
	マウスに関する問題.....	44
	マザーボード・BIOS スタートアップ.....	44
	Windows の起動.....	44
	T2 システムの起動.....	45
	I/O ボードセットに関する問題.....	45
	フロント部分に関する問題.....	46
	タッチスクリーン LCD と操作ボタンに関する問題.....	46
	DVD ドライブに関する問題.....	47
	2.5 インチリムーバブルドライブベイに関する問題.....	47
	映像に関する問題.....	48
	音声に関する問題.....	48
	タイムコードに関する問題.....	49
	操作に関する問題.....	49
	システムに関する問題.....	50
	ストレージに関する問題.....	51
	メディアファイルシステムに関する問題.....	51
	メディアディスクに関する問題.....	51
	ストレージシステムを確認する.....	52
	索引	53

目次

はじめに

本マニュアルは、T2 が故障したと思われる場合の解決方法や保守の手順について記載しています。

T2 の操作方法は 2 種類あり、タッチスクリーン LCD を確認しながらタッチスクリーンやマウスで操作するフロントパネルモードと、T2 に接続した外部ディスプレイを確認しながらマウスやキーボードで操作するワークステーションモードがあります。

本マニュアルでは、保守時に T2 を操作する場合、フロントパネルモードでのマウス操作を行う手順をメインに記載しています。ワークステーションモードで操作を行う場合も、特に記載がない限り、フロントパネルモードでの操作と同様の手順になります。

本書の構成

本マニュアルは次のように構成されています。

Chapter 1, 製品について：

T2 の製品の概要やシステム構成、ステータス表示について説明しています。

Chapter 2, メンテナンス：

保守の手順について説明しています。

Chapter 3, トラブルシューティング：

T2 に何らかの問題が発生したときの問題箇所の特定期間と修復方法について説明しています。T2 が故障したと思われる場合にご活用ください。

はじめに

製品について

この章は次のように構成されています。

- 「製品の概要」 (→ P.12)
- 「システム構成」 (→ P.13)
 - 「PC Subsystem」 (→ P.14)
 - 「Codec Subsystem」 (→ P.14)
 - 「Front Subsystem」 (→ P.15)
 - 「XLR ボード」 (→ P.15)
 - 「ヒューズボード」 (→ P.15)
- 「ステータス表示について」 (→ P.16)
 - 「電源ランプ表示」 (→ P.16)
 - 「LAN インジケータ」 (→ P.16)

製品の概要

T2 は、映像の収録・再生を同時に行うことができる、1 入力 / 2 出力チャンネルを備えた多チャンネルビデオディスクレコーダーです。映像・音声データは内蔵のデータドライブに保存され、記録可能な容量はビデオフォーマットにより異なります。

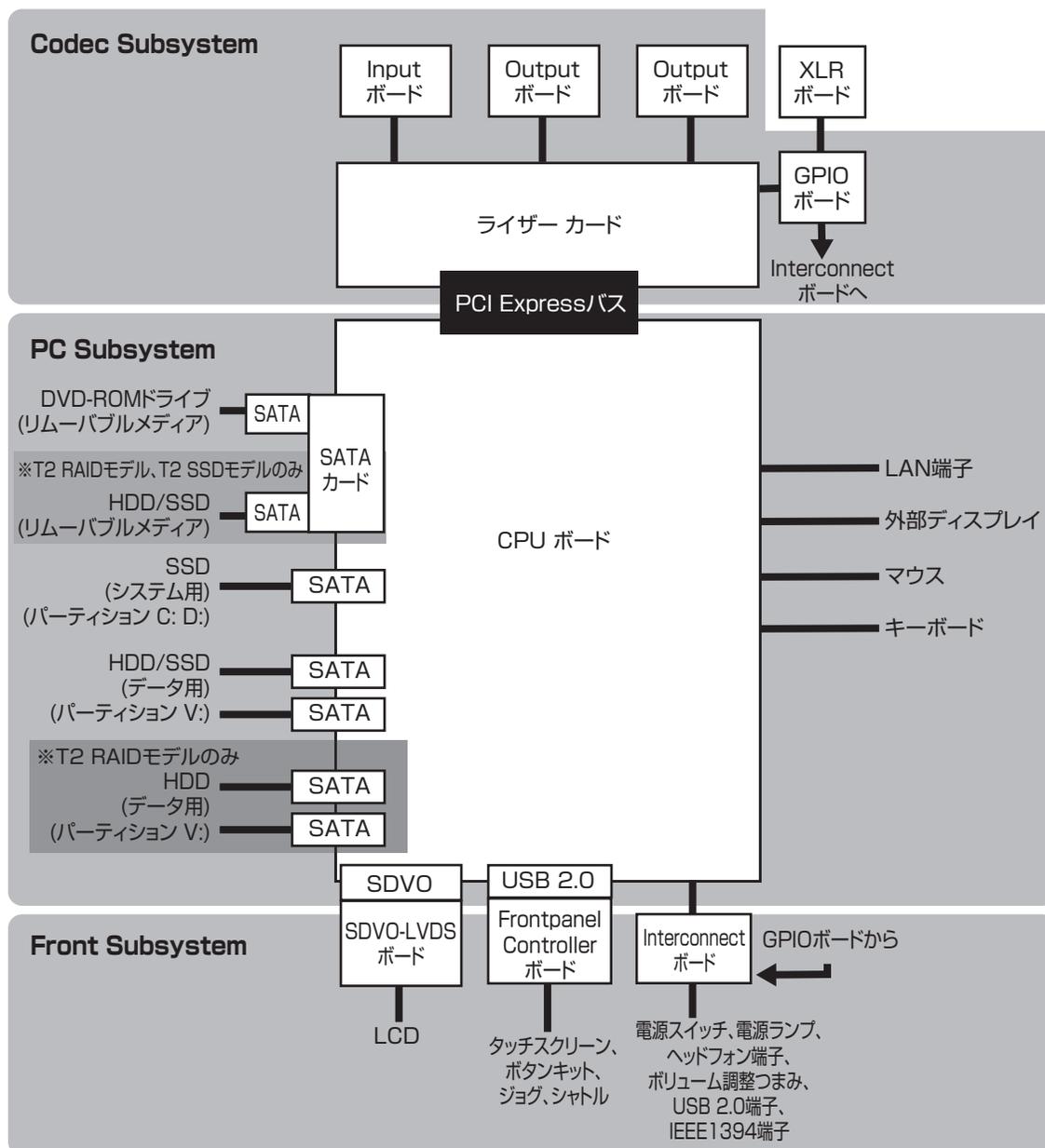
T2 には、映像の収録 / 編集 / 再生、プレイリストの作成や再生などを操作するためのソフトウェアがインストールされています。フロントパネル上のタッチスクリーン LCD では、必要最小限の外部機器接続環境下でも、簡単な操作で編集作業を行うことができます。

特長や機能については詳しくは、T2 User Manual を参照してください。

システム構成

T2は、Windows コンピューターをベースに機能を大幅に強化したビデオディスクレコーダーです。

ここでは、主要なシステム構成について説明しています。



PC Subsystem

PC Subsystem は、Windows OS 上でソフトウェアが動作するように設計されています。
PC Subsystem は、以下のコンポーネントで構成されています。

- シャーシ
- マイクロ ATX マザーボード
- インテル Core 2 Quad プロセッサ
- DDR3 メモリ 2GB
- LAN 端子 × 2
- USB 2.0 端子 (リア側 : × 6、フロント側 : × 2)
- シリアル ATA 端子 (マザーボード : × 5、SATA カード : × 2)
- PS/2 端子 (キーボード、マウス)
- モニター端子
- 電源ユニット
- Windows XP Embedded (32bit)

Codec Subsystem

Codec Subsystem は、1 枚の Input ボード、2 枚の Output ボード、1 枚の GPIO ボードで構成されており、ライザーカード経由でマザーボードに接続されています。Input ボード、Output ボード、GPIO ボードは互いに通信を行い、GPIO ボードからの指示を Input ボード、Output ボードで処理したり、Output 間の同期動作を行います。

Codec Subsystem は、以下のコンポーネントで構成されています。

- ライザーカード
PCI Express バスでボード間の信号送受信を行います。
- Input ボード
映像データの入力と Canopus HQ 形式へのエンコードを行います。
- Output ボード
映像データの出力を行います。
- GPIO ボード
GPIO インターフェース、IEEE1394、アナログオーディオインターフェース、リファレンス入力
で構成されています。
- RS422
- IEEE1394 端子

Front Subsystem

Front Subsystem は、LCD、タッチスクリーン、ジョグ・シャトル、操作ボタンなどのユーザーインターフェース部分で構成されています。

Front Subsystem は、以下のコンポーネントで構成されています。

- Interconnect ボード
電源スイッチ、電源ランプ、ヘッドフォン端子、ボリューム調整つまみ、USB 2.0 端子× 2、IEEE1394 端子で構成されています。
- SDVO-LVDS ボード
マザーボードの SDVO 信号を LVDS 信号に変換し、タッチスクリーン LCD に接続します。
- Frontpanel Controller ボード
USB インターフェースがあり、LCD バックライトと照光式ボタンの調光とタッチスクリーン、照光式ボタン、ロータリーエンコーダの検出を行います。

XLR ボード

XLR ボードは、XLR オーディオコネクタを接続するためのボードです。

ヒューズボード

電源ユニットから各部へ電源供給するためのボードです。

ステータス表示について

ここでは、T2 の現在の状態を示す LED ランプの意味について説明しています。

電源ランプ表示

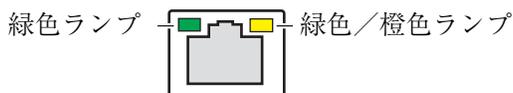
前面の電源スイッチ横に電源ランプがあり、下記の状態を表示します。

LED の状態	状態
OFF	電源が OFF で T2 を操作できません。
緑色点灯	電源が ON で T2 を操作できます。

 **警告**：電源スイッチを OFF にしても、システムの電源は切れていません。システムの電源を切るには、背面の主電源スイッチを OFF にしてください。

LAN インジケータ

背面の RJ-45 LAN コネクタ には、下のイラストのような LAN ランプがあります。



LAN ランプは、下記の状態を表示します。

ランプ位置	ランプの色	ランプの状態	状態
左側	緑色	OFF	LAN リンクがありません。
		ON	LAN リンク確立中です。
		点滅	LAN 上でデータ転送中です。
右側	緑色	OFF	LAN 転送レート 10 Mbit/s
		ON	LAN 転送レート 100 Mbit/s
	橙色	ON	LAN 転送レート 1000 Mbit/s

LAN アダプタが正常に動作しない場合、マザーボードを交換する必要があります。お買い上げいただいた販売店にお問い合わせください。

メンテナンス

この章は次のように構成されています。

- 「タッチスクリーン LCD のお手入れについて」 (→ P.18)
- 「メンテナンスモードの起動と終了」 (→ P.18)
 - 「メンテナンスモードを起動する」 (→ P.19)
 - 「メンテナンスモードを終了する」 (→ P.20)
- 「Maintenance Tools の使用」 (→ P.22)
 - 「Maintenance Tools の起動」 (→ P.22)
 - 「Maintenance Tools の終了」 (→ P.23)
 - 「メディアドライブのメンテナンス」 (→ P.23)
 - 「データのメンテナンス」 (→ P.27)
 - 「システム関連のメンテナンス」 (→ P.34)
- 「Windows デスクトップの使用」 (→ P.37)
- 「工場出荷時の状態へ復元」 (→ P.37)

タッチスクリーン LCD のお手入れについて

タッチスクリーン LCD の表面に、土やほこり・指紋などの異物が付着すると、誤動作の原因になることがあります。次の点に注意して、定期的にタッチスクリーン LCD のお手入れを行ってください。

- 清潔な湿った布に市販の中性洗剤を含ませて、タッチスクリーン LCD の表面を拭いてください。タッチスクリーン LCD に直接洗剤をかけないでください。
- 研磨剤を含む洗剤は使用しないでください。表面に傷が付いたり、画面が見えにくくなるおそれがあります。
- タッチスクリーン LCD の表面に水がたれないようにしてください。本機の内部に水分が入り込むと故障の原因になります。

メンテナンスモードの起動と終了

T2 の起動モードには、通常モードとメンテナンスモードがあります。使用目的によって適切なモードで起動してください。

- 通常モード
自動的に CommandCenter が起動し、映像の収録、再生や編集操作を行うことができます。
- メンテナンスモード
自動的に Maintenance Tools が起動し、T2 の保守を行うことができます。また、メンテナンスモードでは、Windows OS（日付や時刻の設定など）の使用、T2 を工場出荷時の状態に戻すことなどができます。

 **注 意：** T2 は汎用の Windows ワークステーションではありません。T2 は、管理者権限なしで起動し、自動的にログオンできるように設計されています。T2 のシステム設定を変更しないでください。システムの一部または全体が故障するおそれがあります。

- T2 上で User Manager を使用しないでください。
- T2 上で Disk Administrator を使用しないでください。
- T2 上で当社が提供しているサードパーティー製ソフトウェア以外はインストールしないでください。
- T2 上で Windows のアップデートは行わないでください。

メンテナンスモードを起動する

メンテナンスモードで起動するには、いったん通常モードで起動し、CommandCenter からメンテナンスモードで再起動する必要があります。

ここでは、タッチスクリーンLCDでタップして操作する手順をメインに説明しています。

注 意： 操作を行う前に、すべての再生や収録を終了し、メディアへのアクセスを停止してください。

1. 1ch View に切り替え、Menu ボタンをタップした後、Tools → Maintenance をタップする

- ワークステーションモードで操作する場合は、メニューバーから **System** をクリックし、**Maintenance...** をクリックします。

2. パスワード入力画面で入力エリアをタップする

3. 「admin」と入力し、OK をタップする

4. OK をタップする

5. 確認のメッセージが表示されたら、Yes をタップする

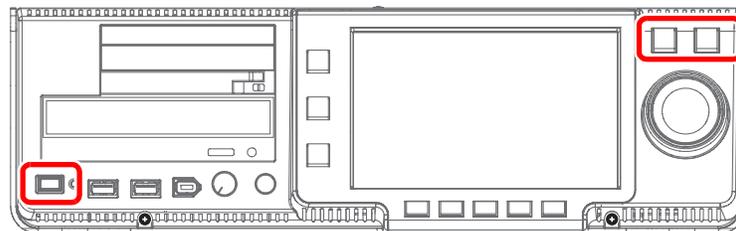
- CommandCenter が終了し、メンテナンスモードで再起動します。
- 必要に応じて、マウスやキーボードを接続してください。
- 再起動後、Maintenance Tools が自動的に起動します。

メンテナンスモードを強制起動する

上記の方法でメンテナンスモードを起動できない場合は、下記の方法を試してください。

1. Shuttle/Jog ボタンと VAR ボタンを同時に押しながら、T2 の電源を入れる

- Shuttle/Jog** ボタンと **VAR** ボタンは、タッチスクリーンLCDに「Now switching to Maintenance mode. The system is rebooting...」というメッセージが表示されるまで押し続けます。



- T2 がメンテナンスモードで起動します。

メンテナンスモードを終了する

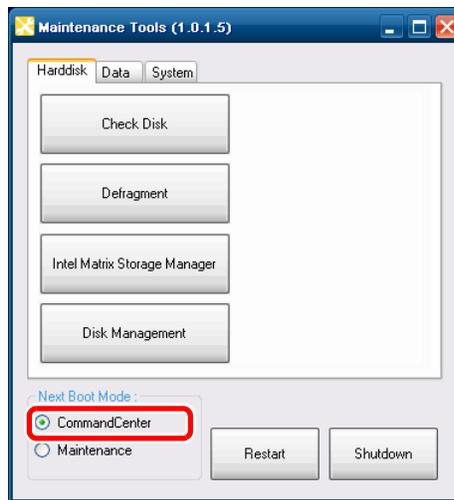
注意：メンテナンスモードを終了する前に、Maintenance Tools での診断を完了しておいてください。

メンテナンスモードから通常モードへ再起動する

メンテナンスモードから通常モードに切り替える操作は、Maintenance Tools メイン画面から行います。

POINT：あらかじめ、Maintenance Tools を起動しておく必要があります。詳しくは、「Maintenance Tools の起動」(→ P.22) を参照してください。

1. Maintenance Tools メイン画面の「Next Boot Mode」で **CommandCenter** を選択する



2. **Restart** をクリックする

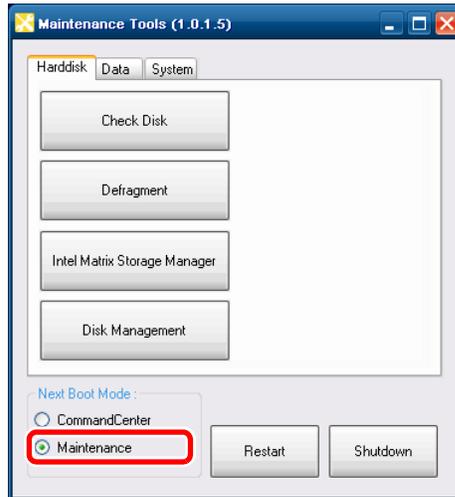
- 再起動後、CommandCenter が自動的に起動します。

メンテナンスモードのまま再起動する

Maintenance Tools メイン画面から、再度メンテナンスモードで再起動する手順について説明します。

POINT：メンテナンスモードで Maintenance Tools が起動していない場合は、Windows デスクトップで通常の再起動の操作を行うと、メンテナンスモードのまま再起動します。

1. Maintenance Toolsメイン画面の「Next Boot Mode」で**Maintenance**を選択する



2. **Restart** をクリックする

- 再起動後、Maintenance Tools が自動的に起動します。

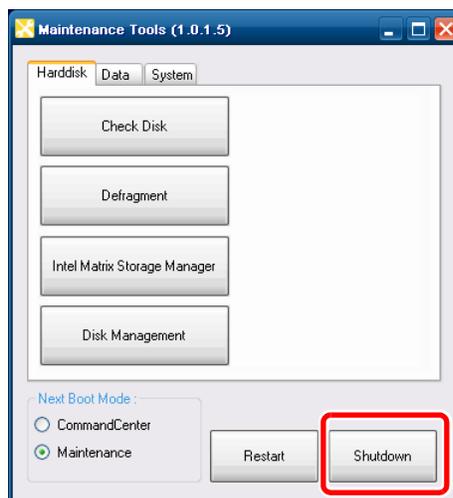
メンテナンスモードを終了し、シャットダウンする

Maintenance Tools メイン画面から、メンテナンスモードを終了し、T2 の電源をシャットダウンします。

POINT : メンテナンスモードで Maintenance Tools が起動していない場合は、Windows デスクトップで通常のシャットダウンの操作を行うと、シャットダウンできます。次回起動時は、メンテナンスモードで起動します。

1. Maintenance Toolsメイン画面で、**Shutdown** をクリックする

- 次回起動時の起動モードを選択することができます。「Next Boot Mode」で **CommandCenter** を選択すると通常モードで起動し、**Maintenance** を選択するとメンテナンスモードで起動します。



Maintenance Tools の使用

Maintenance Tools は、T2 の故障診断やデータのバックアップなどを行うソフトウェアです。Maintenance Tools でできることは、次のとおりです。詳しくは、参照先をご覧ください。

- メディアドライブのメンテナンス
 - メディアディスクのエラーチェック (→ P.23)
 - メディアディスクのデフラグ (→ P.25)
- データのメンテナンス
 - データの整合性チェック (→ P.27)
 - データの初期化 (→ P.29)
 - データのバックアップ (→ P.30)
 - データのリストア (→ P.32)
- システム関連のメンテナンス
 - システム情報の取得 (→ P.34)
 - ログのエクスポート (→ P.35)

Maintenance Tools の起動

Maintenance Tools は、メンテナンスモードを起動すると自動的に起動します。ここでは、メンテナンスモードで Maintenance Tools を終了している状態 (Windows デスクトップ) から、再度起動する手順について説明します。

メンテナンスモードの起動については、「[メンテナンスモードを起動する](#)」(→ P.19) を参照してください。

POINT : あらかじめ、T2 にマウスを接続しておく必要があります。

1. Windows デスクトップの Maintenance Tools のアイコンをダブルクリックする

- エクスプローラで、C:/Eiger の Eiger.Mainte.ToolMain.exe をダブルクリックしても Maintenance Tools を起動できます。
- Maintenance Tools が起動します。

Maintenance Tools の終了

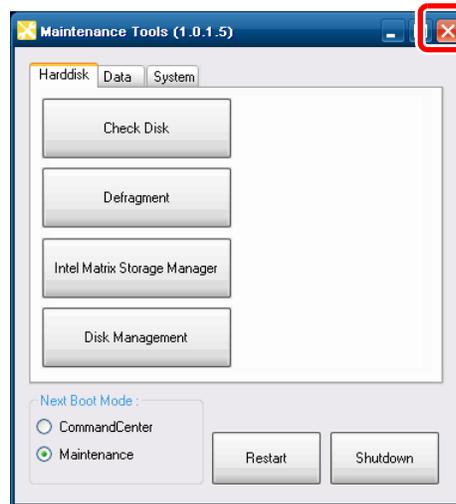
ここでは、Maintenance Tools を終了し、Windows デスクトップを表示する手順について説明します。

メンテナンスモードの終了については、「メンテナンスモードを終了する」(→ P.20) を参照してください。

注意： Maintenance Tools を終了する前に、Maintenance Tools での診断を完了しておいてください。

1. Maintenance Tools メイン画面で×をクリックする

- Maintenance Tools が終了し、Windows デスクトップが表示されます。

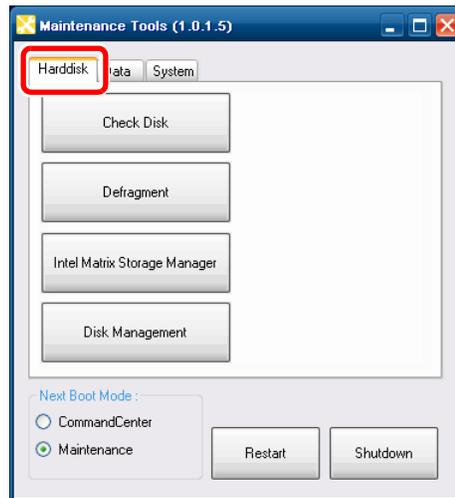


メディアドライブのメンテナンス

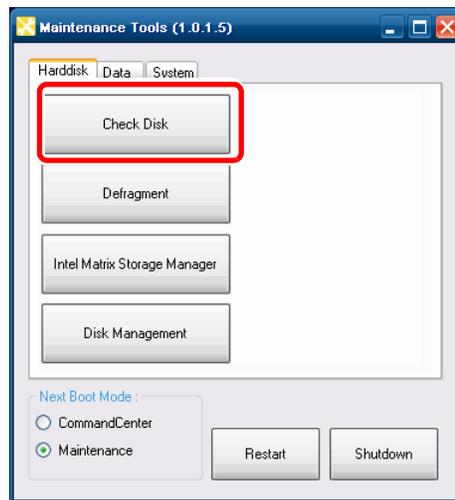
メディアディスクのエラーチェック

データドライブ (V: ドライブ) を対象に、メディアディスクをスキャンし、ファイルシステムエラーや不良セクタを確認することができます。エラーが見つければ、メディアディスクの修復を行います。

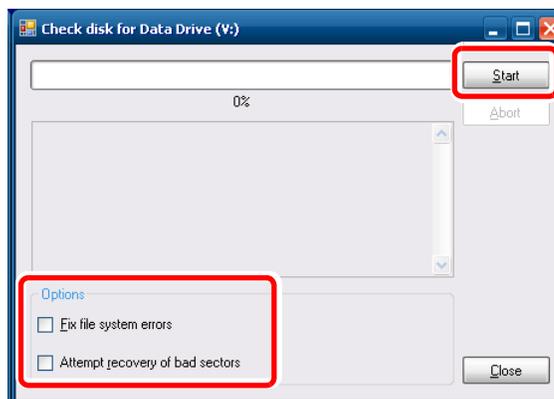
1. Maintenance Tools メイン画面で **Harddisk** タブをクリックする



2. **Check Disk** をクリックする



3. 必要に応じて「Options」の各項目にチェックを入れ、**Start** をクリックする



- **Fix file system errors** にチェックを入れると、不良セクタをスキャンせずに、エラーを自動的に修復します。
- **Attempt recovery of bad sectors** にチェックを入れると、不良セクタをスキャンし、読み取り可能な情報を回復します。
- チェックを途中で中断する場合は、**Abort** をクリックします。

4. 完了した旨のメッセージが表示されたら、**OK** をクリックする

5. **Close** をクリックする

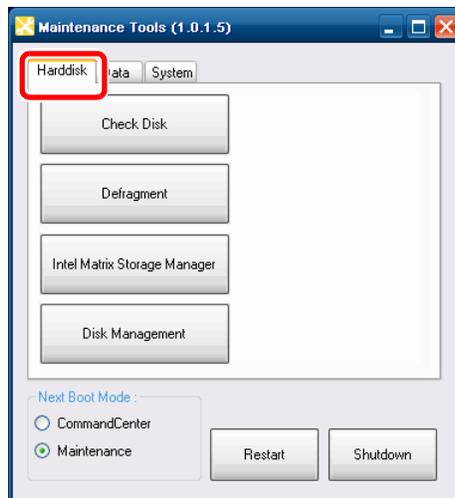
- 「Check disk for Data Drive」画面が閉じます。

メディアディスクのデフラグ

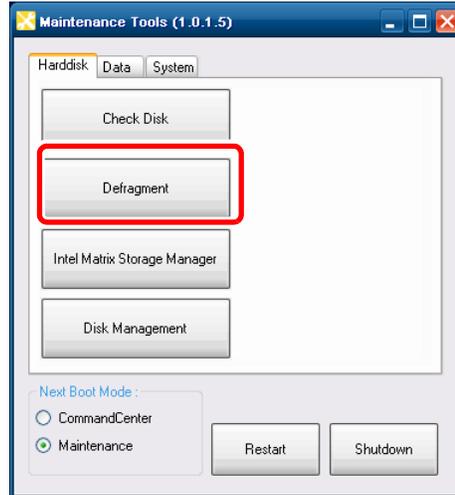
データドライブ（V: ドライブ）を対象に、メディアディスクのデフラグを行います。

注意： T2 SSD モデルでは、メディアディスクのデフラグを行わないでください。デフラグは、SSD には効果がなく、SSD の寿命を縮めるおそれがあります。

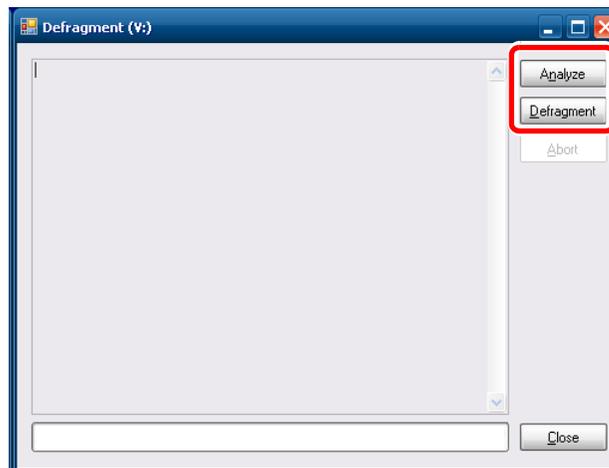
1. Maintenance Tools メイン画面で **Harddisk** タブをクリックする



2. Defragment をクリックする



3. Analyze または Defragment をクリックする



- **Analyze** をクリックすると、フラグメンテーションの分析のみを実行します。分析結果が画面上に表示されます。
- **Defragment** をクリックすると、デフラグを実行します。デフラグの進行状況が画面上に表示されます。
- 途中で中断する場合は、**Abort** をクリックします。

4. 完了した旨のメッセージが表示されたら、OK をクリックする

5. Close をクリックする

- 「Defragment」画面が閉じます。

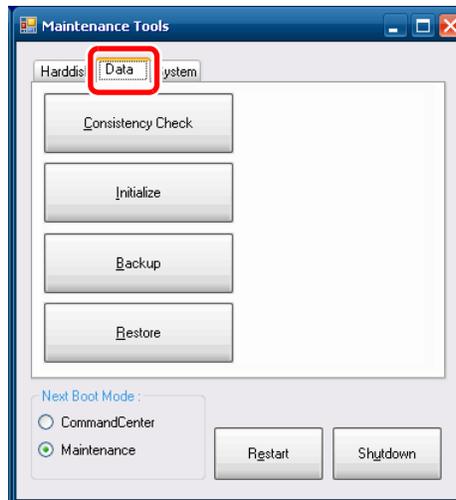
データのメンテナンス

データの整合性チェック

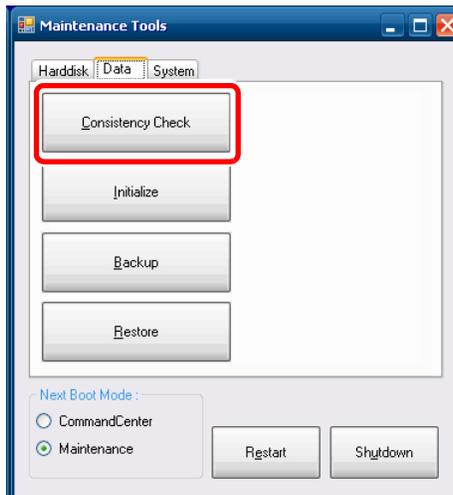
データベースの情報と実際のメディアファイルとの整合性をチェックします。どちらか一方にしか存在しない情報またはメディアファイルをリストアップし、削除することができます。

POINT : Recycle Bin (ごみ箱) 内のデータは、データの整合性チェックの対象外です。

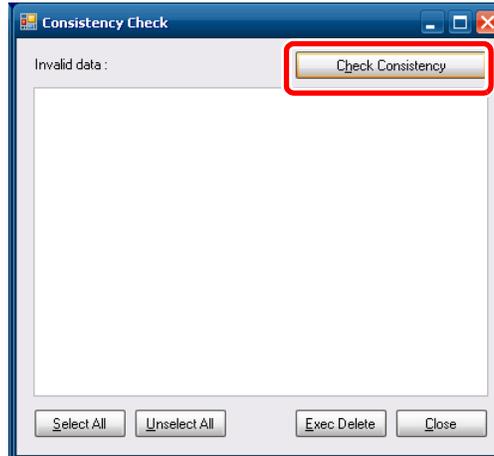
1. Maintenance Tools メイン画面で **Data** タブをクリックする



2. Consistency Check をクリックする

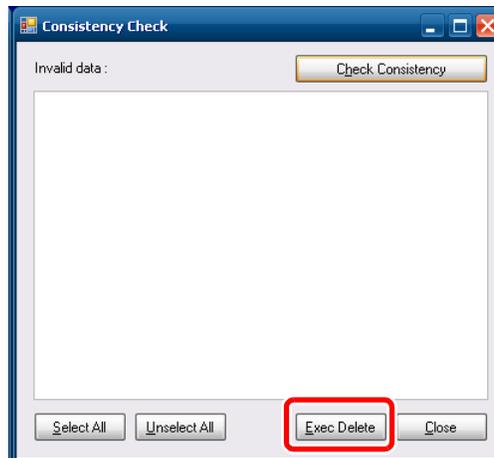


3. Check Consistency をクリックする



- データの整合性のチェックが開始され、不整合情報があれば画面上にリストアップされます。

4. 削除する不整合情報にチェックを入れ、Exec Delete をクリックする



- **Select All** をクリックすると、リストアップされた情報のすべてを選択することができます。
- **Unselect All** をクリックすると、リストアップされた情報のすべてを選択解除することができます。

5. Close をクリックする

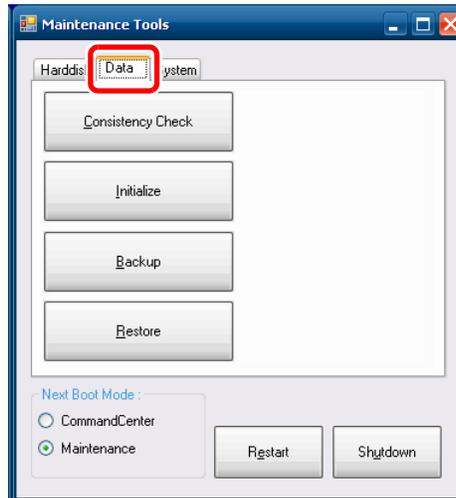
- 「Consistency Check」画面が閉じます。

データの初期化

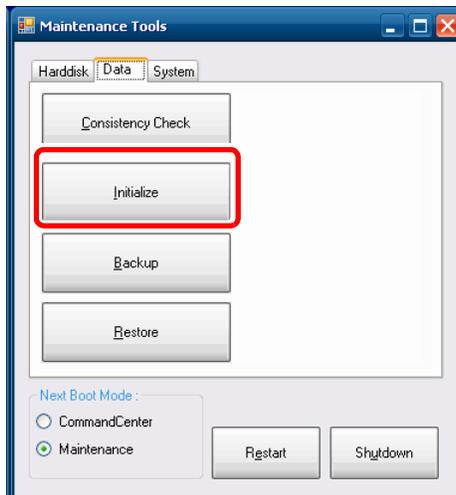
データベースやデータドライブ (V: ドライブ)、Config の設定内容を初期化します。

⚠ 注 意: データの初期化を行うと、現在のデータはすべて削除されます。必要に応じてバックアップを取っておいてください。

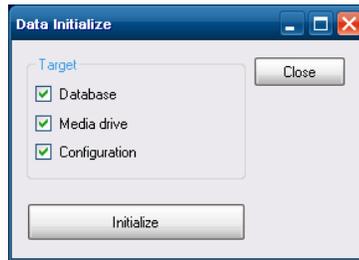
1. Maintenance Tools メイン画面で **Data** タブをクリックする



2. Initialize をクリックする



3. 「Target」で初期化するものにチェックを入れる



- **Database** にチェックを入れると、データベースの内容がすべて削除されます。
- **Media drive** にチェックを入れると、データドライブがフォーマットされ、フォルダ構成が初期化されます。
- **Configuration** にチェックを入れると、Config の設定内容が初期化されます。

4. Initialize をクリックする

- 初期化が実行されます。

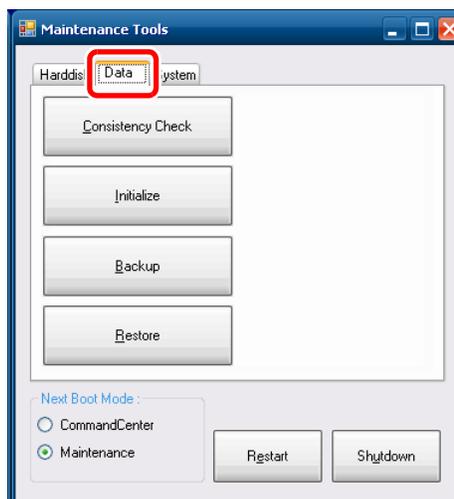
5. Close をクリックする

- 「Data Initialize」画面が閉じます。

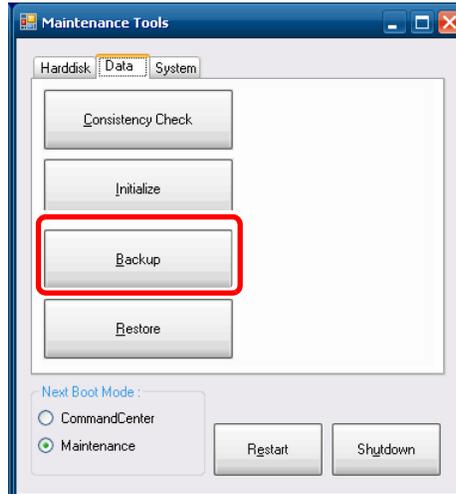
データのバックアップ

データベースやデータドライブ (V: ドライブ) 内のメディアファイル、Config の設定内容をバックアップします。

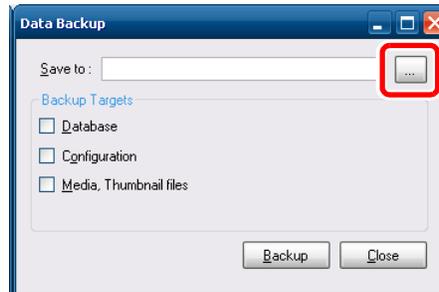
1. Maintenance Tools メイン画面で **Data** タブをクリックする



2. Backup をクリックする



3. ... をクリックし、バックアップデータの保存先を指定する



4. 「Backup Targets」でバックアップの対象にチェックを入れる

- **Database** にチェックを入れると、データベースをバックアップします。
- **Configuration** にチェックを入れると、Config の設定内容をバックアップします。
- **Media, Thumbnail files** にチェックを入れると、サムネイルデータを含むメディアファイルをバックアップします。
- 複数の項目を選択することができます。

5. Backup をクリックする

6. 確認のメッセージが表示されたら、Yes をクリックする

- バックアップが開始され、進行状況が表示されます。

7. 完了した旨のメッセージが表示されたら、OK をクリックする

- 指定した保存先に、バックアップ内容を記述した XML ファイルと、バックアップデータが格納されたフォルダが作成されます。フォルダ名は「保存した年月日 (yyyymmdd)」になります。

8. Close をクリックする

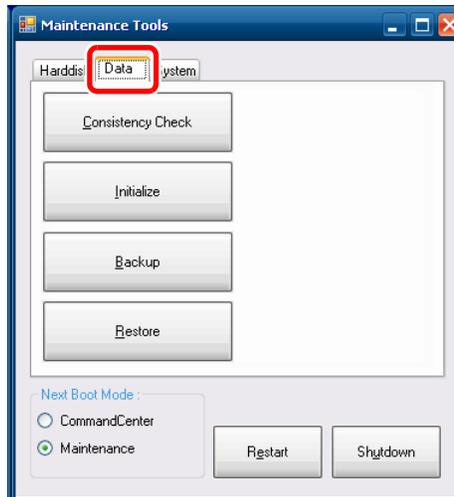
- 「Data Backup」画面が閉じます。

データのリストア

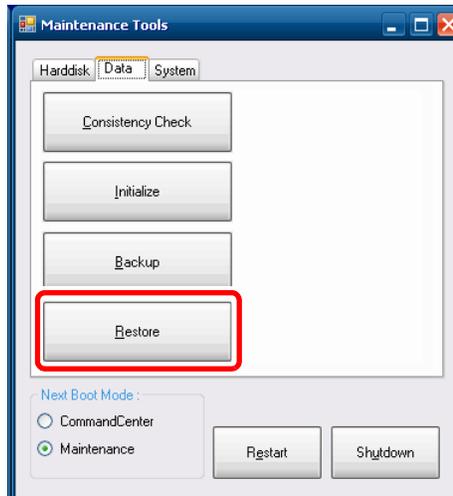
バックアップしたデータベースやメディアファイル、Config の設定内容のデータをリストアします。

注 意: データのリストアを行うと、現在のデータはすべて削除され、リストア元のデータに上書きされます。

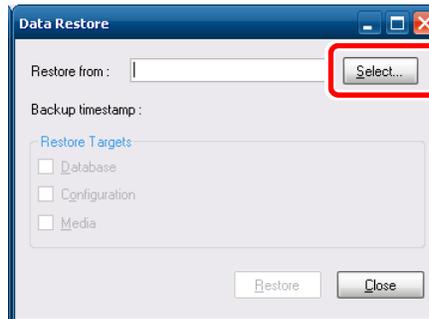
1. Maintenance Tools メイン画面で **Data** タブをクリックする



2. **Restore** をクリックする



3. **Select** をクリックし、バックアップ時に作成された XML ファイルを指定する



- 「Backup timestamp」にバックアップした日時が表示されます
- 「Restore Targets」の項目の中で、XML ファイルと同じ階層にバックアップデータが存在するものにチェックが入ります。

4. 「Restore Targets」でリストアするデータにチェックが入っているか確認する

- リストアが不要な項目があれば、チェックを外します。

5. **Restore** をクリックする

6. 確認のメッセージが表示されたら、**Yes** をクリックする

- リストアが開始されます。

7. 完了した旨のメッセージが表示されたら、**OK** をクリックする

8. **Close** をクリックする

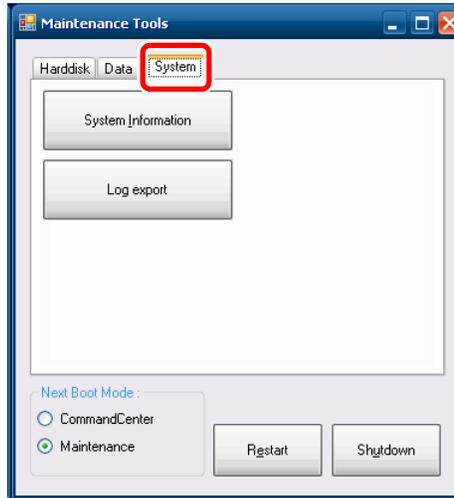
- 「Data Restore」画面が閉じます。

システム関連のメンテナンス

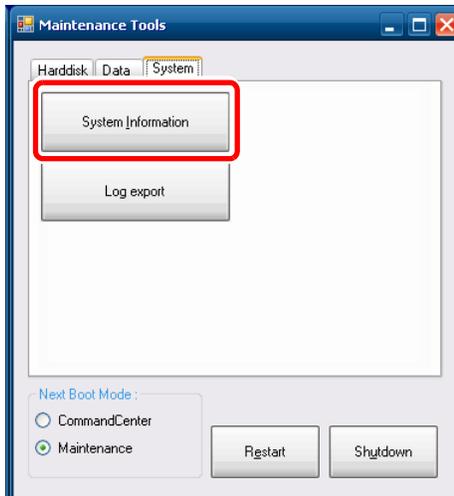
システム情報の取得

Windows OS のシステム情報（ハードウェア情報、コンポーネント、ソフトウェア環境など）を取得し、テキスト形式で保存します。

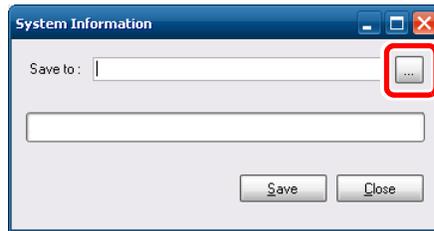
1. Maintenance Tools メイン画面で **System** タブをクリックする



2. **System Information** をクリックする



3. ... をクリックし、システム情報の保存先とファイル名を指定する



- プログレスバーでシステム情報取得の進行状況が表示されます。

4. 完了した旨のメッセージが表示されたら、OK をクリックする

- 指定した保存先に、システム情報を記述したテキスト形式のファイルが作成されます。

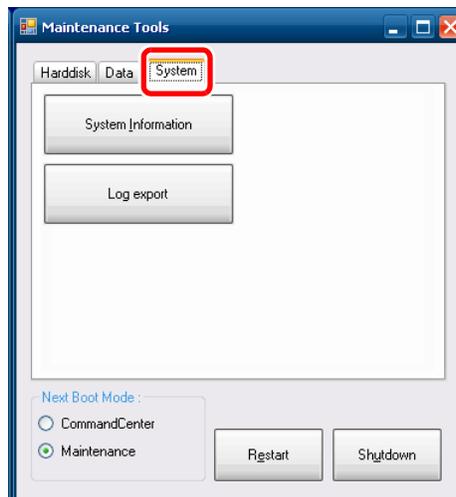
5. Close をクリックする

- 「System Information」画面が閉じます。

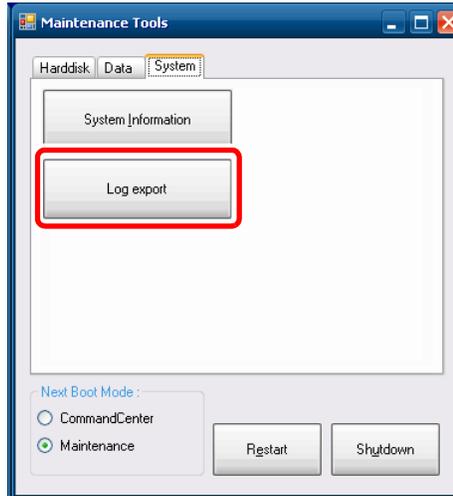
ログのエクスポート

操作のログ、Windows OS 内部のイベントログ、データベースのログ、Dr. Watson のメッセージログを出力します。

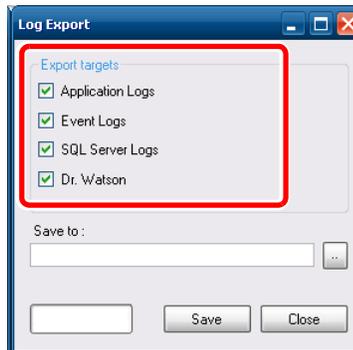
1. Maintenance Tools メイン画面で System タブをクリックする



2. Log export をクリックする



3. 「Export targets」で出力するログにチェックを入れる



- **Application Logs** にチェックを入れると、操作のログが出力されます。
 - **Event Logs** にチェックを入れると、Windows OS 内部のイベントログが出力されます。
 - **SQL Server Logs** にチェックを入れると、データベースのログが出力されます。
 - **Dr. Watson** にチェックを入れると、Dr. Watson のメッセージログが出力されます。
 - 複数の項目を選択することができます。
4. ... をクリックし、ログの保存先とファイル名を指定する
- プログレスバーでログのエクスポートの進行状況が表示されます。
5. 完了した旨のメッセージが表示されたら、**OK** をクリックする
- 指定した保存先に、ログファイルがまとめられた ZIP ファイルが作成されます。
6. **Close** をクリックする
- 「Log Export」画面が閉じます。

POINT : ワークステーションモードで操作している場合、CommandCenter を起動中に、操作のログを確認することができます。メニューバーから **Option** をクリックし、**Log → Show Log...** をクリックします。「Log Viewer」画面が表示されたら、任意のログファイルを選択して、操作のログを表示します。

Windows デスクトップの使用

メンテナンスモードでは、Windows デスクトップを使用して、日付や時刻の設定など Windows OS の通常の機能を使用することができます。

Windows デスクトップは、メンテナンスモードで起動した後、Maintenance Tools を終了すると使用できます。詳しくは、「メンテナンスモードを起動する」(→ P.19) と「Maintenance Tools の終了」(→ P.23) を参照してください。

工場出荷時の状態へ復元

製品に付属のリカバリ用ディスク T2 Series Recovery Software DVD を使用して、T2 を工場出荷時の状態に復元（リカバリ）する手順について説明します。

POINT : あらかじめ、T2 にマウスとキーボードを接続しておく必要があります。

POINT : リカバリでは、データドライブ (V: ドライブ) の内容は初期化されません。データドライブを初期化する場合は、「データの初期化」(→ P.29) を参照してください。

 **注 意 :** リカバリを行う場合は、USB や IEEE1394 などのインターフェースに外部記録デバイスを接続しないでください。

 **注 意 :** リカバリを行うと、下記のデータはすべて初期化されます。必要に応じて、データを外部記録デバイスにバックアップしておいてください。

- データベース
- Config の設定内容
- ログ (操作のログ、Windows OS 内部のイベントログ、データベースのログ、Dr. Watson のメッセージログ)

1. T2 の電源を入れる

- 前面の電源スイッチを ON にします。

POINT : T2 RAID モデル、T2 SSD モデルでは、2.5 インチリムーバブルドライブベイの下段に、メディアを挿入していないことを確認してください。

2. T2 Series Recovery Software DVD を DVD ドライブにセットする

3. T2 を再起動し、POST 画面が表示されたら、キーボードの [F10] キーを数回押す
 - メンテナンスモードから再起動する場合は、「メンテナンスモードを終了する」(→ P.20) を参照してください。
 - 通常モードから再起動する場合は、「メンテナンスモードを起動する」(→ P.19) を参照してください。
 - 「Boot Menu」が表示されます。
4. キーボードの [←] または [→] キーで「2. PCI BEV: XX:XX-0 ATAPI XXXXXXXX」を選択し、[Enter] キーを押す
5. 「Press any key to boot from CD or DVD.」と表示されたら、任意のキーを入力し、[Enter] キーを押す
6. 「About Symantec Ghost」画面が表示されたら、**OK** をクリックする
7. **Local** をクリックし、**Disk → From Image** をクリックする
 - 「Image file name to restore from」画面が表示されます。
8. リカバリイメージがあるドライブ「E: [CD_ROM] CD Rom/DVD drive」を選択する
9. E: ドライブ直下にある GHO 形式のファイルを選択し、**Open** をクリックする
 - 「Select local destination drive by clicking on the drive number」画面が表示されます。
10. 「XXXXX … 02」を選択し、**OK** をクリックする
 - 「Destination Drive Details」画面が表示されます。
11. C: ドライブの「New Size」をクリックし、C: ドライブの「Old Size」の数値と同じ数値を入力する
12. D: ドライブの「New Size」をクリックし、D: ドライブの「Old Size」の数値と同じ数値を入力する
13. **OK** をクリックする
14. 確認のメッセージが表示されたら、**Yes** をクリックする
 - リカバリイメージの書き戻しを行います。しばらく時間がかかります。
15. 完了した旨のメッセージが表示されたら、DVD ドライブから T2 Series Recovery Software DVD を取り出し、**Reset Computer** をクリックする
 - T2 が再起動し、SID 生成処理に加えてドライブレターと仮想メモリの設定バッチが動作します。

16. 完了した旨のメッセージが表示されたら OK をクリックし、T2 を再起動する

- T2 がメンテナンスモードで再起動します。
- 通常モードで起動したい場合は、いったんメンテナンスモードで起動してから、通常モードに切り替えます。詳しくは、「メンテナンスモードから通常モードへ再起動する」(→ P.20) を参照してください。

POINT : リカバリ後、データの初期化を行うことを推奨します。詳しくは、「データの初期化」(→ P.29) を参照してください。

POINT : リカバリ後、CommandCenter でデータドライブ (V: ドライブ) 内のメディアファイルをそのまま使用することはできません。メディアファイルを外部記録デバイスへコピーし、CommandCenter で再度メディアファイルを取り込む必要があります。操作について詳しくは、T2 User Manual を参照してください。

Chapter 3

トラブルシューティング

T2に何らかの不具合が発生したと思われる場合は、まず、以下の内容について確認してください。

- 「ステップ1 設定を確認する」(→ P.42)
- 「ステップ2 接続と外部機器を確認する」(→ P.42)

次に、トラブルシューティングの該当する各項目を参照してください。

- 「起動・終了に関する問題」(→ P.42)
- 「外部機器の確認」(→ P.43)
 - 「外部ディスプレイに関する問題」(→ P.43)
 - 「キーボードに関する問題」(→ P.43)
 - 「マウスに関する問題」(→ P.44)
- 「マザーボード・BIOS スタートアップ」(→ P.44)
- 「Windows の起動」(→ P.44)
- 「T2 システムの起動」(→ P.45)
- 「I/O ボードセットに関する問題」(→ P.45)
- 「フロント部分に関する問題」(→ P.46)
 - 「タッチスクリーン LCD と操作ボタンに関する問題」(→ P.46)
- 「DVD ドライブに関する問題」(→ P.47)
- 「2.5 インチリムーバブルドライブベイに関する問題」(→ P.47)
- 「映像に関する問題」(→ P.48)
- 「音声に関する問題」(→ P.48)
- 「タイムコードに関する問題」(→ P.49)
- 「操作に関する問題」(→ P.49)
- 「システムに関する問題」(→ P.50)
- 「ストレージに関する問題」(→ P.51)
 - 「メディアファイルシステムに関する問題」(→ P.51)
 - 「メディアディスクに関する問題」(→ P.51)
 - 「ストレージシステムを確認する」(→ P.52)

ステップ 1 設定を確認する

T2 が故障したと思われる場合は、入出力などの設定を見直すことで、簡単に解決できることがあります。T2 Quick Start Guide を参照して、基本的な設定を確認し、収録／再生に関する問題を解決してください。

ステップ 2 接続と外部機器を確認する

システムや外部機器が正しく動作しない場合、ケーブルの接続が緩んでいるか、正しく接続されていない可能性があります。ケーブル接続をチェックすることで、簡単に問題を解決できる場合があります。T2 Quick Start Guide を参照し、ケーブルを正しく接続してください。接続している外部機器が故障していると思われる場合は、トラブルシューティング「[外部機器の確認](#)」(→ P.43) を参照してください。

起動・終了に関する問題

ソフトウェアエラーにより T2 が操作できなくなった場合、電源スイッチが正常に動作しないことがあります。電源スイッチを押しても T2 がシャットダウンしない場合は、10 秒間電源スイッチを長押しし、T2 を強制終了します。強制終了しない場合は、背面の主電源スイッチを切り、本体から電源コードを抜いてください。

外部機器の確認

ここでは、T2に接続している外部機器に関する問題を解決するための手順を説明しています。

外部ディスプレイに関する問題

BIOS 起動時の画面は VGA 解像度で表示されます。

問題	考えられる原因	対処方法
画面の電源は入っているが、T2からの映像が何も表示されない。	VGA コネクタまたはケーブルが故障している。	外部ディスプレイを交換します。外部ディスプレイがSXGA以上の解像度で表示できるか確認してください。
	BIOS 設定が変更されている。	BIOS 設定メニューから、「Load Setup Default」を実行してください。
	T2 のシステム設定が変更されている。	リカバリ用ディスクを使用して、工場出荷時の状態に戻してください。手順について詳しくは、「工場出荷時の状態へ復元」(→ P.37)を参照してください。

キーボードに関する問題

BIOS起動時にキーボードを検出します。USBキーボードはプラグアンドプレイで検出します。

問題	考えられる原因	対処方法
キーを押してもT2が正しく反応しない。	キーボードが故障している。	<ol style="list-style-type: none"> 1. キーボードを USB 端子で接続している場合は、他の USB 端子への接続を試してください。 2. 問題が解決しない場合は、キーボードを交換してください。 PS/2 キーボードを使用している場合は、USB キーボードを試してください。USB キーボードを使用している場合は、PS/2 キーボードを試してください。 3. 問題が解決しない場合は、マザーボードに問題があります。お買い上げいただいた販売店にお問い合わせください。
	マザーボードに問題がある。	
	T2 のシステム設定が変更されている。	リカバリ用ディスクを使用して、工場出荷時の状態に戻してください。手順について詳しくは、「工場出荷時の状態へ復元」(→ P.37)を参照してください。

マウスに関する問題

BIOS 起動時にマウスを検出します。USB マウスはプラグアンドプレイで検出します。

問題	考えられる原因	対処方法
マウスをクリックしても T2 が反応しない。	マウスが故障している。	1. マウスを USB 端子で接続している場合は、他の USB 端子への接続を試してください。 2. 問題が解決しない場合は、マウスを交換してください。 PS/2 マウスを使用している場合は、USB マウスを試してください。USB マウスを使用している場合は、PS/2 マウスを試してください。 3. 問題が解決しない場合は、マザーモードに問題があります。お買い上げいただいた販売店にお問い合わせください。
	マザーボードに問題がある。	
	T2 のシステム設定が変更されている。	リカバリ用ディスクを使用して、工場出荷時の状態に戻してください。手順については、「 工場出荷時の状態へ復元 」(→ P.37) を参照してください。

マザーボード・BIOS スタートアップ

起動して数秒後、システムインフォメーションメッセージが画面上に表示されます。これは BIOS の POST (Power On Self Test) です。このとき、キーボードの [F2] キーを押すと BIOS 設定画面になります。BIOS の POST が完了すると、Grass Valley のロゴが表示され、OS (Windows) のロードが開始されます。

もし BIOS の POST 中に、何らかの入力を求められたり、T2 が Windows の起動を開始しない場合は、HDD、SSD (データ用)、SSD (システム用)、マザーボードのいずれかの故障が考えられます。このような場合は、下記の手順に沿って問題を解決してください。

BIOS 設定メニューの「Load Setup Default」を実行し、BIOS を初期化します。

再起動後、POST 画面で HDD または SSD (データ用) の名称が表示されない場合は、「[メディアディスクに関する問題](#)」(→ P.51) を参照し、状況を確認してください。

それでも問題が解決しない場合は、お買い上げいただいた販売店にお問い合わせください。

Windows の起動

マザーボードの起動が完了したら、OS (Windows) が起動します。通常、OS の起動は自動的に完了し、起動時に何らかの操作を行う必要はありません。T2 は自動的にログオンする設定になっています。

Windows 起動画面が自動的に進まなかったり、入力を求めるメッセージが表示されたりする場合は、OS の問題が考えられます。ネットワーク設定などのマイクロソフトのサポート手順にしたがっても解決しない場合は、OS が正常に機能していません。このような問題を解決するには、T2 システムのリカバリを行ってください。詳しくは、「[工場出荷時の状態へ復元](#)」(→ P.37) を参照してください。

T2 システムの起動

OS の起動プロセスが完了したら、T2 システムの起動プロセスが始まります。「preparing」というメッセージが表示された後、T2 のロゴが表示されます。その後、通常モードの場合は CommandCenter が起動します。

T2 システムの起動には約 20 秒かかります。

システムが正しく起動しない場合は、リカバリ用ディスクを使用して、工場出荷時の状態に戻してください。手順について詳しくは、「[工場出荷時の状態へ復元](#)」(→ P.37) を参照してください。

I/O ボードセットに関する問題

I/O ボードセットが正常かどうかをテストするには、以下の手順にしたがってください。

1. 出力先 (P1 / P2 チャンネル) および入力先 (R1 チャンネル) を同一のビデオ / オーディオフォーマットに設定する
2. クリップを P1 または P2 チャンネルにロードする
3. クリップのループ再生を開始する
4. ループ再生中のチャンネルの出力先を入力先に設定 (ループ) する
 - ビデオとオーディオの両方で同様の設定を行います。検証済みの正常な信号が入力先へ送出されます。
5. 短時間のクリップを収録する
6. 次の手順にしたがって、I/O ボードセットの収録機能を検証する
 - (1) 収録したクリップのサムネイルを確認する
 - (2) 前面のヘッドフォン端子に接続したヘッドフォンでクリップの音声を聞く
7. もう一方の再生チャンネルでクリップを再生する

8. 次の手順にしたがって、I/O ボードセットの再生機能を検証する

- (1) 検証済みの正常な出力デバイスで映像を確認する
- (2) 出力された音声を聞く

9. 他のビデオ／オーディオフォーマットでこの手順を繰り返す

検証結果が正常な場合は、I/O ボードセットは正常です。発生している問題は別の原因によるものと考えられます。

予期せぬ結果が生じた場合は、I/O ボードセットに問題があります。次の表内の項目について点検してください。それでも問題が解決しない場合は、お買い上げいただいた販売店にお問い合わせください。

問題	考えられる原因	対処方法
プレビューエリアに、「Board not found」というメッセージが表示される。	ドライバが正常に動作していない。	リカバリ用ディスクを使用して、工場出荷時の状態に戻してください。「 工場出荷時の状態へ復元 」(→P.37)を参照してください。

フロント部分に関する問題

タッチスクリーン LCD と操作ボタンに関する問題

問題	考えられる原因	対処方法
タッチスクリーン LCD の映像がおかしい。 タップ操作に反応しない。	T2 のソフトウェアまたは OS に問題がある。 タッチスクリーン LCD が故障している。	1. CommandCenter が起動し、実行中であることを確認してください。 2. 問題が解決しない場合は、T2 にマウス、キーボード、外部ディスプレイを接続し、タッチスクリーン LCD と同等の動作ができるかテストしてください。外部ディスプレイですべて問題なく動作するようであれば、タッチスクリーン LCD に関するソフトウェアに問題がある可能性があります。「 工場出荷時の状態へ復元 」(→P.37)を参照し、T2 システムのリカバリを行ってください。

問題	考えられる原因	対処方法
操作ボタンで操作ができない。	操作ボタンが故障している。 T2 のソフトウェアまたは OS に問題がある。	<ol style="list-style-type: none"> 1. CommandCenter が起動し、実行中であることを確認してください。 2. CommandCenter が起動している状態で、操作ボタンで操作ができない場合は、ボタンキットのデバイスがあることを確認してください。メンテナンスモードで起動し、デバイスマネージャーを開き、「Human Interface Devices」の下に「HID-compliant game controller」があるかを確認してください。 3. リカバリ用ディスクを使用して、工場出荷時の状態に戻してください。「工場出荷時の状態へ復元」(→ P.37) を参照してください。

DVD ドライブに関する問題

問題	考えられる原因	対処方法
DVD ドライブ内のメディアへアクセスしない。(OS (Windows) のエラーメッセージが表示される場合がある。)	ドライブに挿入しているメディアに問題があるか、OS がドライブを認識していない、またはドライブのピックアップレンズが汚れているか、ドライブ自体が故障している。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 挿入しているメディアが正常にフォーマットされたものかを確認してください。必要に応じて、他のメディアも試してください。正常にフォーマットされたメディアを挿入しても問題が解決しない場合は、次の手順に進んでください。 2. メディアへアクセスするときの DVD ドライブのアクセスランプの状態を確認してください。ランプが正しく点滅しない場合は、T2 を再起動して、再度アクセスを試してください。

2.5 インチリムーバブルドライブベイに関する問題

問題	考えられる原因	対処方法
リムーバブルドライブベイにあるドライブへアクセスしない。(OS (Windows) のエラーメッセージが表示される場合がある。)	ベイに挿入されている SSD または HDD か、ドライブベイ自体に問題がある。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 右側のロックスイッチを右へ押ししてロックを解除し、SSD または HDD を取り出してください。もう一度 SSD または HDD を挿入し、ロックスイッチを左へ押ししてロックしてください。その後、ドライブのランプが点灯するか確認してください。 2. 別の SSD または HDD を挿入し、ロックスイッチをロックして、ドライブのランプが点灯するかを確認してください。

映像に関する問題

ここで記載している対処方法について、詳しくは、T2 User Manual を参照してください。

問題	考えられる原因	対処方法
クリップの最後で、黒画面になるチャンネルがある。	チャンネルが E to E モードになっていて、ビデオ入力信号が存在していない。	ビデオ入力信号が有効かどうかを確認してください。
再生中のクリップがない場合、P1 / P2 チャンネルの映像が異なる。	一方のチャンネルが E to E モードになっていて、もう一方のチャンネルが異なる再生モードになっている。	同じ表示にする必要がある場合は、P1 / P2 チャンネルを同じ再生モードにしてください。
特定の周期で画像レベルが変調する。	ビデオ入力信号に過度のハムノイズが含まれていて、AGC (自動ゲイン制御) 回路はその周期で画像レベルを変調し、問題を補正しようとしている。	ビデオ入力信号に過度のハムノイズが含まれていないか確認します。

音声に関する問題

ここで記載している対処方法について、詳しくは、T2 User Manual を参照してください。

問題	考えられる原因	対処方法
入力している映像の音声がない。	オーディオ入力先が正しく設定されていない。	正しいオーディオ入力先を設定してください。
E to Eモードの音声出力と通常の再生音声出力の両方の音声にゆがみが生じている。	オーディオ入力信号の入力オーディオレベルが過剰であるため、クリッピングが生じている。	オーディオ入力のクリッピングを確認してください。オーディオ入力のトリムを調整してください。P1 / P2 チャンネルのオーディオレベルを調整してください。ソースの入力オーディオレベルを下げてください。
アナログオーディオレベルが極端に低い。	オーディオレベルを調整する必要がある。	オーディオ入力のトリムを調整してください。R1チャンネルまたはP1 / P2チャンネルのオーディオレベルを調整してください。ワークステーションモードで、ソースの入力オーディオレベルを上げてください。
オーディオレベルが極端に低い。	オーディオレベルを調整する必要がある。	R1チャンネルまたはP1 / P2チャンネルのオーディオレベルを調整してください。ソースの入力オーディオレベルを上げてください。

問題	考えられる原因	対処方法
オーディオレベル表示が自分のシステムで使用している正しいリファレンスレベルを表示していない。	オーディオリファレンスレベルが正しく設定されていない。	オーディオリファレンスレベルを正しく設定してください。
MONITOR 端子・ヘッドフォン端子でR1の音声に周期的にノイズがのる。	ビデオ入力信号にオーディオクロックが同期できていない。	R1チャンネルのビデオスタンダードの設定を確認してください。ビデオ入力信号がビデオスタンダードに合ったものかどうか検証してください。

タイムコードに関する問題

ここで記載している対処方法について、詳しくは、T2 User Manual を参照してください。

問題	考えられる原因	対処方法
収録された映像のタイムコードが「--:--:--」になる。	素材タイムコードがない。	素材タイムコードを設定してください。
クリップにIn/Out点のタイムコードがなく、現タイムコードの表示が、「--:--:--」となっている。または、最近表示したタイムコードが表示されている。	選択した素材タイムコードが消えてしまっているか、収録が時々とぎれている。	R1 チャンネルが選択されていて、素材にタイムコードが存在していることを確認して、再度収録を行ってください。既存のクリップのタイムコードを再取得することもできます。

操作に関する問題

ここで記載している対処方法について、詳しくは、T2 User Manual を参照してください。

問題	考えられる原因	対処方法
同じチャンネル上で、再生できるクリップと再生できないクリップがある。	クリップが T2 の現在のチャンネル設定に合っていないか、クリップが壊れている。	グレーアウトしているクリップは現在のチャンネル設定に合っていません。クリップのプロパティで、ビデオスタンダードなどの設定が正しいかどうかを確認してください。また、正しく再生されるクリップのプロパティと比較してください。プロパティに問題がない場合は、クリップが壊れている可能性があります。クリップを削除して、再度収録してください。

問題	考えられる原因	対処方法
クリップが編集できない。	クリップがロックされている。	クリップのロックを解除してください。
プレイリストの読み込みまたは再生ができない。	プレイリストが T2 の現在のチャンネル設定にあっていないか、プレイリストが壊れている。	グレーアウトしているプレイリストは現在のチャンネル設定に合っていません。プレイリスト内各イベントのソースクリップのプロパティでビデオスタンダードを確認してください。また、正しく再生されるプレイリストと比較してください。プロパティに問題がない場合は、プレイリストが壊れている可能性があります。プレイリストを削除して、再度作成してください。
T2からチャンネルを変更できない。コントロールが反応しない。	チャンネルが、Remote 制御が有効に設定されている。	Remote 制御を無効にしてください。

システムに関する問題

ここで記載している対処方法について、詳しくは、T2 User Manual を参照してください。

問題	考えられる原因	対処方法
R1 チャンネルで収録ができない。	R1 チャンネルのビデオスタンダードの設定が間違っている。	R1チャンネルのビデオスタンダードの設定を確認してください。ビデオ入力信号がビデオスタンダードに合ったものかどうか検証してください。

ストレージに関する問題

T2のストレージシステムが故障していると思われる場合は、以下の内容を参照してください。

メディアファイルシステムに関する問題

問題	考えられる原因	対処方法
1つまたは複数のクリップが正しく再生・収録できない。	メディアファイルとデータベースの同期がとれていないか、破損ファイルがある。特定の操作に関して問題が起る場合は、「 ストレージシステムを確認する 」(→ P.52)を参照してください。	1. 特定のクリップが再生・収録できない場合は、そのクリップを削除してください。 2. 問題が解決しない場合は、Maintenance Toolsを起動し、「 メディアディスクのエラーチェック 」(→ P.23)を参照し、チェックを実行してください。問題が解決しない場合は、「 データの整合性チェック 」(→ P.27)を参照し、チェックを実行してください。

メディアディスクに関する問題

SATA ドライブを簡単にチェックするには、Windows デスクトップで **My Computer** を開き、C:、D:、V: ドライブを確認します。C:、D: ドライブは 2.5 インチリムーバブルドライブベイの内部にセットされている SSD (システム用) です。V: ドライブはタッチスクリーン LCD の後ろ側にあり、ストライピングされています。

問題	考えられる原因	対処方法
「Media disks getting full…」というメッセージが表示される。	メディアディスクの空き容量が少なくなっている。	未使用のクリップを削除し、ゴミ箱を空にして空きスペースを確保してください。

ストレージシステムを確認する

ここでは、ストレージシステムに関する問題を調べるための手順を説明しています。メディア入出力に関する問題、または、特定の操作に関する問題が発生したときに以下の内容を参照してください。

問題	考えられる原因	対処方法
ビデオ収録が停止する、再生時に黒い画面しか表示されない、映像がフリーズする、パフォーマンスが低下する、メディアアクセスの不整合、などの症状が発生する。	<p>以下の内容が原因で、または他の原因との関連で問題が発生する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メディアディスクへの処理要求がディスク帯域幅を超えている場合（ディスク超過）に起こります。例えば、ジョグ・シャトル、多チャネルの収録・再生などの高帯域幅動作の組み合わせで実行しているときなどに発生します。 ・Windows の処理内容が CPU に過負荷をかけているときに発生します。T2 のソフトウェアと競合するサポート対象外のソフトウェアがインストールされている場合や、ウィルススキャンやスクリーンセーバーが自動的に起動し、システムリソースを消費している場合は、問題が発生する原因になります。 ・メディアディスクが極度に断片的になっている場合、一部のメディア操作に干渉する不良ブロックがある場合（ディスクの故障）に発生します。例えば、特定のクリップが不良ブロックに書き込まれると、そのクリップ上でのみ問題が発生します。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. サポート対象外のソフトウェアをインストールしている場合は、アンインストールしてください。 2. 問題が解決しない場合は、問題が発生したときと同じ操作を行い、システムに影響を及ぼしている操作・動作を特定してください。特定の操作を同時に行ったことが原因であると判明した場合は、作業手順を再検討して、その状況を避けるように操作してください。問題が特定のクリップでのみ発生するものであれば、ディスクに問題がないかを調べてください。

索引

数字

2.5 インチリムーバブルドライブベイ
トラブルシューティング 47

B

BIOS

スタートアップ..... 44

C

Codec Subsystem..... 14

CommandCenter 18, 20
起動時のトラブルシューティング... 45

CPU

トラブルシューティング 52

D

DVD ドライブ

トラブルシューティング 47

F

Front Subsystem 15

Frontpanel Controller ボード

概要..... 15

G

GPIO ボード

概要..... 14

I

I/O ボードセット

トラブルシューティング 45

Input ボード

概要..... 14

Interconnect ボード

概要..... 15

L

LAN インジケータ 16

LCD ボードキット

トラブルシューティング 46

M

Maintenance Tools

概要 22

起動 22

終了 23

N

NTSC

トラブルシューティング 49

O

Output ボード

概要 14

P

PAL

トラブルシューティング 49

PC Subsystem 14

R

RJ-45 LAN コネクタ

ランプ 16

S

SDVO-LVDS ボード

概要 15

SSD (データ用)

トラブルシューティング 51

W

Windows

起動 44

起動時のトラブルシューティング .. 44

デスクトップ 37

X

XLR ボード

概要 15

あ

安全に関する注意事項..... 3

索引

え

映像

トラブルシューティング 48

お

音声

トラブルシューティング 48

か

外部機器

トラブルシューティング 43

外部ディスプレイ

トラブルシューティング 43

き

キーボード

トラブルシューティング 43

起動に関する問題 42

こ

工場出荷時の状態へ復元 37

し

システム

起動 45

構成 13

情報 34

トラブルシューティング 50

メンテナンス 34

終了に関する問題 42

使用上のご注意 3

す

ステータス表示について 16

ストレージシステム

トラブルシューティング 52

せ

製品の概要 12

そ

操作

トラブルシューティング 49

操作ボタン

トラブルシューティング 46

た

タイムコード

トラブルシューティング 49

タッチスクリーン LCD

お手入れ 18

トラブルシューティング 46

つ

通常モード 18

通風孔 4

て

テスト

I/O ボードセット 45

ディスク

エラーチェック 23

デフラグ 25

トラブルシューティング 52

データ

初期化 29

整合性 27

バックアップ 30

メンテナンス 27

リストア 32

デフラグ 25

と

トラブルシューティング

初期確認 41

ドライブレター 51

は

パスワード 19

ひ

ヒューズボード

概要 15

ふ

フリーズ

トラブルシューティング 52

ほ

ボタンキット

トラブルシューティング 47

ま

マウス

トラブルシューティング 44

マザーボード

スタートアップ..... 44

め

メディアディスク

トラブルシューティング 51

メンテナンス 23

メディアファイルシステム

トラブルシューティング 51

メンテナンスモード

概要..... 18

起動..... 19

終了..... 20

ら

ライザーカード

概要..... 14

ランプ (LED) 16

り

リカバリ 37

リカバリ用ディスク 37

ろ

ログ

エクスポート 35